

## 大会報告

### 九州地区本部定期大会

「一人ひとり」の  
行動強化を再確認！  
新年度の運動方針を  
確立する！

8月27日(日)、北九州市・国際会議場AIMにおいて、九州地区本部第33回定期大会が開催されました。議長に福岡支部赤松代議員を選出し、議事は進められました。

地区本部を代表してあいさつに立った羽木委員長は、「熊本地震から1年4カ月が経過したが、未だ4万7千名の方が仮設住宅などに避難生活を余儀なくされている。また、7月5日には九州北部豪雨により多くの方々が被災された。自然災害の恐ろしさの中、改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げる」「会社は第30回株主総会において、新役員体制が決定し、『JR貨物グループ中期経営計画2021』を発表した。計画作成に当たっては、当社の5年後、10年後の姿を理想し、経常利益100億円を安定的に確保するため、重点戦略を策定した。私たちは計画の内容を十分に把握し、行き過ぎた合理化はないか、安全面は大丈夫かなど、しっかり検証しなければならぬ」「組織関係については、脱退者の問題

については、執行部でしっかりと総括し、今後に生かさなければならぬ。駅職場から新たな仲間を迎え入れた。暖かく歓迎したい。JR発足30年となり、間もなく国鉄採用者が一線を退いていく。組合員一人ひとりが信念を持ち、世代交代に備えていこう」などと訴えました。



続いて来賓として駆け付けていただいた、JR九州労組中原委員長、九州ロジスティクス労組木村委員長、退職者連絡会藤本会長、全国交通共済九州事業本部川岡事業推進部長の方々から、激励と連帯のあいさつをいただきました。本部辻村書記長からは、「今や日本列島どこでも自然災害が発生し得る。また鉄道事故、労働災害も多発しており、危険な事象は貨物会社の存続も脅かす。今一度安全最優先で作業を行ってほしい」と話されました。

議事では、田代書記長より主な活動の経過、新年度方針案・予算案までが一括提起され、その後質疑が行われました。出された主な意見は、「日豊線のダイヤ見直しと将来展望について」「新入社員への対策」「小倉車両所の将来展望について」「青年部費について」などです。執行部・本部からの答弁では、「全国420本の列車のうち半数の赤字列車への対策が決まらぬと、基地配置や各系統の展望が見えてこない」「新賃金制度は特に40歳以下の社員に厳しいものとなる。他労組を巻き込んで取り組まなければならない」などを受け、新年度方針案が満場一致で採択されました。

役員改選では、4期8年間地区本部委員長として先頭に立った、羽木委員長が勇退され、田代書記長が新委員長に選出されました。

最後に田代新委員長の「団結ガンバロー」で閉会し、親睦会では、来賓の方も交え楽しく意見交換を行いました。

### JR連合退職者連絡会 第8回総会

9月13日、都内のホテルにおいて「JR連合退職者連絡会 第8回総会」が開催され、

貨物鉄産労からは役員として退職者連絡会 前村会長、代議員として高須元本部副委員長、山崎退職者担当が参加しました。総会では、カンパ活動の取り組みや退職者の組織化をめぐる問題について報告があり、向こう1年間の運動方針を満場一致決定しました。その後、居酒屋に場所を移し懇親会が行われました。



### 早川町ボランティア

JR連合は、9月23、24日、山梨県早川町において、地域活性化ボランティア活動を行い、貨物鉄産労からは、東海地区本部より、柴田・早川、2名が参加しました。

JR連合 総勢では18名が集まり、集落の方々と一緒に、1日目は、集落の除草作業をメインに行い、2日目は、獣害対策として設置した電柵周辺の除草、および蔓草切り等を行いました。懇親会では、集落の方々も含め交流を深め、早川町の実態や歴史を知ることができ、2日間を通し、全員怪我等もなく、充実した活動を終える事が出来ました。

安全運転と  
安心補償で  
ハンドルを握る。



マイカー共済(自動車総合補償)/自賠償共済

昨年で、早川町ボランティア活動も2年を迎え、今後もJR連合が行う諸活動に積極的に参加していき、自身自身のスキルアップに繋げていきたいと思います。

